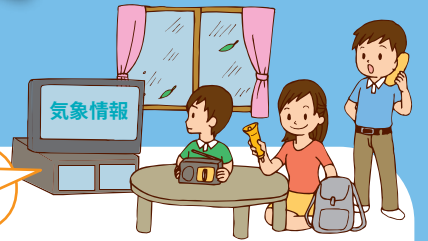


# 風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
 undanから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



## 大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策。

まずは、  
 確実な情報が大事  
 その次に迅速な対応

### 大雨注意報・ 警報の 発表基準

#### 大雨注意報

大雨によって災害が起こる  
 おそれがあると予測される場合。  
 ・表面雨量指数(注1) 6 ・土壌雨量指数(注2) 84

#### 大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる  
 おそれがあると予測される場合。  
 (浸水害)表面雨量指数 16 (土砂災害)土壌雨量指数 102

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

## 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づら。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

## 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

## 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。  
 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/秒 以上 44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒 以上 54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

## 局地的大雨と集中豪雨

気象庁の定義によると、「局地的大雨」は単独の積乱雲が急激に発達して降らせる一過性の大雨のことで「ゲリラ豪雨」とも呼ばれることもあります。局地的に数十ミリになります。「集中豪雨」は積乱雲が同じ場所で次々と発達を繰り返し、雨が数時間にわたって降り続く現象です。狭い範囲に数百ミリの雨を降らせず。

その中でも、積乱雲が連続して発生し線状に並びその規模が幅20~50km、長さが50~200kmになるものが「線状降水帯」と呼ばれています。停滞性の線状降水帯は、同じ場所で激しい雨が長時間降り続き、まさにその場所にいる人にとっては経験したことのない大雨となり、甚大な被害をもたらすおそれがあります。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、  
 注意して  
 おきましょう!



### 地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。該当箇所には を表記しております。

注1 表面雨量指数: 短時間強雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中にしみ込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。  
 注2 土壌雨量指数: 大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

### 災害注意エリア

土砂災害警戒区域や洪水想定区域等の指定はされていないものの、過去に災害が発生したり、発生が危惧されるなど注意を要するため、本市独自に設定しているエリア。